

財団法人茨城県労働者信用基金協会

[法人の概要]

平成19年7月1日現在

代表者名	理事長 武藤 賢治 (非常勤)	県所管部課	商工労働部 労働政策課	
所在地	水戸市梅香 2-1-39	電話番号	029-225-2871	
ホームページURL	http://www.ibarousinkyo.or.jp/	E-mailアドレス	info@ibarousinkyo.or.jp	
資本金(基本財産)	1,112,000 千円	設立年月日	昭和47年9月25日	
主な出資者	出資順位	出資者名	出資額	出資比率
	1	基金準備金	638,017 千円	57.4 %
	2	労働金庫	182,600 千円	16.4 %
	3	茨城県	152,500 千円	13.7 %
	4	市	123,550 千円	11.1 %
	5	町村	11,530 千円	1.0 %
	その他	労働団体	3,803 千円	0.3 %
設立目的	茨城県下の労働者の相互扶助精神を基調として、組織労働者と比較して信用力等に不利な状況にある未組織労働者が、労働金庫等を利用する場合、当協会がその信用力を補完することにより、労働者の経済的地位の向上と生活の安定を図ることを目的として県・市町村・労働福祉事業団体等の出捐金をもとに設立された。			

[事業の概要]

事業名	平成19年度事業費	内容
事業1 信用保証事業	1,213,886 千円	労働者が労働金庫等から融資を受ける場合、当協会が金庫に対して債務の保証を負担することにより、組織・未組織を問わず信用力が高まり、多くの県民労働者が融資を受けることができる。
事業2	千円	
事業3	千円	

[組織]

7月1日現在の人数	平成17年		平成18年		平成19年		
	県派遣	県OB	県派遣	県OB	県派遣	県OB	
役員	常勤理事	1	0	0	1	0	0
	非常勤理事	7	0	0	7	0	0
	常勤監事	0	0	0	0	0	0
	非常勤監事	2	0	0	2	0	0
	計	10	0	0	10	0	0
職員	管理職	2	0	0	1	0	0
	一般職	1	0	0	2	0	0
	臨時職員	0	0	0	0	0	0
	嘱託職員	0	0	0	0	0	0
	計	3	0	0	3	0	0
当期常勤職員の年齢構成	20代以下	30代	40代	50代以上	合計	平均年齢	平均勤続年数
		2	1	1	4	42.8	2.0

[収支の状況]

財団法人茨城県労働者信用基金協会

(単位:千円)

区 分		平成16年度	平成17年度	平成18年度
収 支 の 状 況	収入合計	1,142,859	1,236,505	1,261,077
	事業収入	240,373	270,419	263,225
	事業外収入	902,486	966,086	997,852
	支出合計	1,092,859	1,154,505	1,161,077
	事業支出	52,146	50,843	52,301
	事業外支出	1,040,713	1,103,662	1,108,776
	うち管理費	10,842	11,792	12,003
	うち人件費	41,294	39,026	39,181
	当期収支差額	50,000	82,000	100,000
	正味財産増加額		30,000	0
正味財産減少額	0	0	0	
当期正味財産増減額	50,000	112,000	100,000	
前期繰越正味財産	850,000	900,000	1,012,000	
期末正味財産	900,000	1,012,000	1,112,000	
財 産 の 状 況	資産	1,894,144	2,048,335	2,098,124
	流動資産	1,325,080	1,464,174	1,591,870
	固定資産	569,064	584,161	506,254
	負債	994,144	1,036,335	986,124
	流動負債	3,569	13,417	17,744
	うち短期借入金	0	0	0
	固定負債	990,575	1,022,918	968,380
	うち長期借入金	0	0	0
正味財産	900,000	1,012,000	1,112,000	

[財的関与の状況]

(単位:千円)

区 分		平成16年度	平成17年度	平成18年度
財 的 関 与 状 況	補助金	7	83	0
	委託金	0	0	0
	貸付金	0	0	0
	計	7	83	0
	財政的関与の割合(%)	0%	0%	0%
	損失補償・債務保証	12,019	16,049	13,918

[平成18年度の補助金等の目的・内容等]

支 出 項 目	目 的 ・ 内 容 ・ 効 果
補助金	
委託金	
貸付金	

[評点集計]

評価の視点	評価項目数	評点	満点	得点率
計画性	4	8	8	100.0%
目的適合性	5	5	14	35.7%
組織運営の適正性	4	6	8	75.0%
健全性	11	38	40	95.0%
効率性	8	6	28	21.4%
合計	32	63	98	64.3%

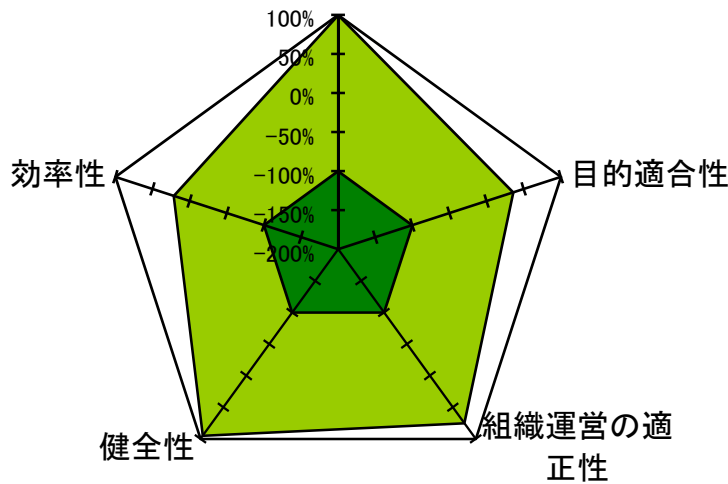
公益法人会計用

財団法人茨城県労働者信用基金協会

警戒指標

--

経営評価レーダーチャート計画性



《評価の視点》

計画性	経営目的、経営方針が各種計画に反映され、計画・実行・見直しが行われているか
目的適合性	法人が行っている事業と当初の設立目的が適合しているか
組織運営の適正性	組織、人事、財務等の内部管理体制が適切に整備・運用され、かつ情報公開による透明性の確保が適切か
健全性	法人の財務体質が健全であるか、また、各事業の採算性がとれているか
効率性	組織の管理運営上における人的・物的な経営資源が有効活用されているか

各評価項目については、「出資法人等経営評価指標及び評価基準等」を参照

[法人の自己評価(経営概況、経営上の課題・対策等)]

計画性	目的適合性	組織運営の適正性	健全性	効率性
中期経営計画(3カ年)に沿って、単年度計画の事業推進を図って行く。	勤労者の経済的地位の向上を図るため、勤労者の金融面における債務の保証を行うことにより、福祉事業の一環として、社会的使命を担って事業の展開を図って行く。	事業達成に向けて、目標を月次で管理し、職員意識の高揚を図るとともにコンプライアンスの重視、個人情報保護を基本とした組織の運営を図って行く。	将来的損失の引当を行う他、収支改善により毎年経常利益を計上し基本財産の上積みを図って事業の安定に努めています。	求償権管理回収の効率を上げるため、人的対応等を検討して参ります。
今後の事業展開の方向	出損団体と連携し経営拡大を図り、健全経営に徹した事業運営を行っていきます。今後、公益法人改革の動向を踏まえ、適切な判断の上対応するとともに新会計処理基準によるシステムの導入を検討して参ります。			

[法人を担当する課の意見]

計画性		目的適合性	組織運営の適正性	健全性	効率性
中期経営計画に基づき、適正に事業運営が行われるよう、指導していく。		多くの勤労者が利用しており、福祉事業の一環として、社会的使命を担って事業の展開を図っていくという目的に合致していると考えられる。	組織は、適正に運営されていると考えられる。 中期計画及び単年度計画の事業達成に向けて、目標管理と、職員意識の高揚を図るとともにコンプライアンスの重視、個人情報保護を基本とした組織の運営を図っていく必要がある。	自己破産の増加等に伴い、代位弁済も増加する中、中期経営計画に基づきより安定的な事業運営を行っていく必要があると考えられる。	効率化・省力化及び経費の節減等を図るとともに 求償権管理回収事務の一層の効率化が必要と考える。
改革工程表等の取組状況	取組内容等		<p>平成18年以降、公益法人制度改革の動向を受けて、全国団体である(社)日本労働者信用基金協会連合会(略称全国労信連)と各県の労働者信用保証協会は、統合を含む組織見直しを行うことになるので組織のあり方について検討してゆく。</p> <p>○ 公益法人制度改革関連法を受けて、上部団体である全国労信連としての制度改革への対応の基本スタンスは「公益性の認定に向けて取り組む」ことを確認しているが当協会の組織のあり方については公益法人制度改革の動向を受けて検討する。</p> <p>○ 求償権の回収率は他単協に比して平均を下回っているが、これは茨城労信協の求償権残高割合に占める無担保保証比率が高いという特徴によるものであるが、今後とも回収体制を強化し代位弁済による求償権及び償却求償権の回収増に努める。</p> <p>○ 督促請求については、長期延滞社に対する自宅訪問並びに法的手続きによる回収等により回収強化を図り、年間目標の達成に向けて取り組んでいく。</p>		
	平成18年度		平成19年度	平成20年度	
	計 画	○健全経営への取り組み ・年度目標設定による求償権及び償却求償権回収の強化 回収目標 4,500万円	○方向性の検討 ・上部団体との調整・公益法人認定手続き作業 ○健全経営への取り組み ・年度目標設定による求償権及び償却求償権回収の強化	○方向性の検討 ・上部団体との調整・公益法人認定手続き作業 ○健全経営への取り組み ・年度目標設定による求償権及び償却求償権回収の強化	
取 組 状 況	・債権回収額 3,618万円 債権回収件数 H17:2,313件 → H18:2,533件	-	-		
法人担当課の意見		<p>当法人は未組織労働者への融資に対して債務保証を行っており、現在新規保証件数・額ともに安定的に推移し黒字経営が続いており各種経営指標も全て基準を上回っている。</p> <p>また、類似団体に比して劣るとされる求償権の回収率であるが、代位弁済の支払い能力の指標である代弁能力係数は前年度に比して0.25P向上し 4.72Pとなり財務体質は向上している。</p> <p>一方、代位弁済額は増加傾向にあり、破産宣告等の増加により求償権回収業務が以前より困難さを増しているが法的手段(給与差押え等)の活用など尚一層努力する必要があると思われる。</p> <p>公益法人制度改革を受けた(社)日本労働者信用基金協会との組織のあり方などについては、関係団体と連携をはかりながら適切な対応に努められたい。</p>			

[総合評価]

<p>取組みを強化すべき視点</p>	<p>計画性 目的適合性 組織運営の適正性 健全性 効率性</p>
<p>総合的所見等</p>	<p>概ね良好 改善の余地がある 緊急の改善措置が必要</p> <p>保証債務の新規取扱件数及び残高ともに計画目標を達成し、黒字経営を継続している。債務の保証ニーズは高く、未組織労働者の生活の安定に寄与している。代弁能力計数が高くなり財務体質は向上しているが、代位弁済額は増加傾向にあり、また、求償権の回収には厳しいものがあることから、今後とも回収事務の効率化、体制強化を図り、その回収に努められたい。</p> <p>なお、公益法人制度改革を踏まえた(社)日本労働者信用基金協会との関係を含め組織のあり方などについては、引き続き関係団体と連携を図りながら適切な対応に努められたい。</p>

<p>総合的所見等に 係る対応</p>	<p>代位弁済に備えた支払い能力は高く、財務体質は向上しているものの、代位弁済額は増加傾向にあることから、融資時の金融機関における信用調査等の徹底を図るとともに、当法人においても、法的整理を含め、回収体制を強化し代位弁済による求償権及び償却求償権の回収増に努めるよう指導していく。</p> <p>組織のあり方については、公益法人制度改革の動向を受けて、関係団体と連携を図りながら検討を行うよう指導していく。</p>
-------------------------	---

< 財団法人茨城県労働者信用基金協会 から県民のみなさまへ >

(財)労働者信用基金協会は、中小企業に働く勤労者が労働金庫から融資を受ける時の信用保証機関です。「生活資金」「教育資金」「住宅資金」融資等の信用保証を通じて勤労者の方々の経済的地位の向上に取り組み、暮らしを応援しております。

平成20年2月 理事長 武藤 賢治